

7-1

主題	最期まで安全に経口摂取していただくために…
----	-----------------------

安全な食事摂取

副題	食事委員会の取り組み
----	------------

多職種連携

研究期間	15ヶ月
------	------

事業所	池上長寿園大田区立特別養護老人ホームたまがわ
-----	------------------------

発表者：飯田 恵里	アドバイザー：小泉 昭子
-----------	--------------

共同研究者：岩月 里織、食事委員会メンバー9名

電 話	03-5732-1021	メール	tamagawa.jl@ikegami.or.jp
-----	--------------	-----	---------------------------

FAX	03-5732-1024	URL	
-----	--------------	-----	--

今回発表の 事業所や サービスの 紹介	当施設は平成12年5月開設。特養200床・ショートステイ40床の大規模な従来型の施設です。「その人がその人らしく生きることを支えるために私達がいる」「みんなでみんなを」の基本理念を柱に利用者のQOLの向上に取り組んでいます。
------------------------------	--

《研究前の状況と課題》

○利用者・職員の状況

- ・利用者の重度化が進み、摂食に問題のある方が増加している。
- ・施設でターミナルケアが行われるようになり、摂食困難になっても積極的な治療や胃ろう造設をせず、経口摂取を希望される方が増加している。
- ・利用者人数が多く、食事・水分提供方法、介助方法が個別化、複雑化している。
- ・ケアワーカーの経験や意識に個人差があり、利用者への対応にもバラつきがあった。
- ・ご家族が職員の食事介助のスキルの差に不安を感じていた。

○課題

- ・最期まで安全に口から食べていただく為に職員間で介助方法や食事介助に対する意識を確認する必要性があった。

《研究の目標と期待する成果》

○勉強会の実施

- ・食事介助に関する勉強会を開催し、試食や介助実習を行うことにより、利用者の立場に立った介助ができるようになる。
- ・食事介助の危険の認識、安全に食事を提供することを理解する。
- ・できるだけ多くのケアワーカーが勉強会に参加できるようにする。
- ・食事委員が中心となって企画、運営を進めてく。委員会の年間のまとめとして3月に勉強会を実施する。

～たまがわの食事委員会～

- ・メンバーはケアワーカー、看護師、栄養士、調理委託業者職員で構成されている。
- ・日常の食事が向上・改善する活動（食事環境改善、食事についての職員教育 等）を実施。
- ・自立者も、部屋から出て来られない利用者にも楽しんでいただける、イベント食の実施。

《具体的な取り組みの内容》

○アンケートの実施

・職員の食事介助についての実情を把握するため「食事に関するアンケート」を実施した。

（食事介助に関わっている全職員対象）

・アンケートを集計し、職員が勉強会に盛り込んでほしいこと、食事介助で難しい、危険だと感じていることを把握した。勉強会で採り上げる内容を明確にした。

○食事介助勉強会の企画・運営

・企画、運営は食事委員、フロアリーダー等で行い、ケアワーカーの視点で勉強会を進められるようにした。栄養士、理学療法士などの専門職はバックアップをする体制にした。

・勉強会前半は参加者全員を対象にアンケート集計結果の報告等を 10 分程度、栄養士から行った。

・後半は各フロアに分かれ、フロアリーダーが講師となり体験型の勉強会にした。体験ではお茶ゼリー、お茶トロミ、せんべい等食感が異なる食品、様々なスプーン、車イス、エプロン、お手拭等を使用し、利用者の立場により近付けるように設定をした。職員同士で介助を行った。

・終了時間は各フロアの進行・質問状況に合わせて企画側からは設けなかった。

・多くの職員の参加を期待し、同一内容で 3 回勉強会を実施した。（参加者 計 56/122 名）

《取り組みの結果と評価》

・食事を安全に食べていただける様に職員が工夫するようになった。

・介助 1 つ 1 つを確認しながら介入することが出来るようになった。

・職員同士で介助方法について注意し合う事がより出来るようになった。

・介助について不明な点は確認をする、介助方法に疑問を持つようになった。

・食事委員が活動を通して得たことを他のケアワーカーに伝える役割を果たしている。

・ケアワーカー、看護師、栄養士、理学療法士の多職種間で連携が深まった。

《まとめ》

○今後の課題

・経験年数がある職員や意識が高まらない職員、自主的には勉強会や研修に参加しない職員へのアプローチ。

・定期的な勉強会の実施。

・食事委員のメンバーが年度毎に構成されるが、職員の共通認識を継続的に得るために、活動を続けていく。

《参考文献》

《提案と発信》

職員が自分達で問題意識を持ち、食事に関することは食事委員会が中心となり活動してきた。勉強会は体験型にすると参加者が集まる傾向にある。また、継続して活動することが大切であると感じている。

多職種で連携して勉強会を行い、職員ひとり、ひとり更には施設全体のレベルアップにつなげていきたい。

【メモ欄】追加資料 有 無

注：参加者が自由に記入できるスペースです。空欄のまま提出下さい。